

1 研究テーマ 中学年の発達段階に応じた国語の授業づくり
2 はじめに

今までかかわってきた中学年の児童の実態として、学習や生活の中で低学年のときには、さほど困難を感じることがなかったと見られていた子どもたちでも中学年になると個人差が少しずつ大きくなり、学習内容に難しさを感じている児童が少なからず見られた。低学年では具体的な経験や言葉で表現、理解することが求められるのに対して、中学年では日常生活をこえた抽象的で分かりにくい言葉の理解や思考を求められるようになる。言語を通して思考し、発達していくことを考えると国語科が担うべき役割は大きいと言える。

3 研究目的 児童の発達と授業改善について考え、検証する。

(仮説)

中学年の発達をふまえ、論理的な言語理解や言語表現を意識させることにより、どの子にも「わかる・できる」が実感できるのではないかと。

4 研究内容

(1) 文献や資料による基礎理論研究

① 児童の発達と国語科における指導の系統

年齢	乳幼児期 0...5	6	7	8	9	10	11	12	13	青年期
発達段階	(ピアジェの発達段階論)									
	具体的操作期					形式的操作期				
指導の系統	体験・イメージ		(低)	(中)	(高)					
			事柄と順序	理由や事例	段落相互の関係	て表現	文章構成を使っ	内容や要旨		

中学年の児童は具体的操作期にあたり、具体的な思考から言語の力を土台とすることで抽象的思考へと移行していく。小学校6年間の中で、中学年は、論理的な思考を身につけはじめることが求められる重要な時期である。

② 「授業のユニバーサルデザイン」の考え方を基にした授業の構想

どの子にも「わかる・できる」が実感できる授業づくりのための3要件

- ① 「焦点化」
ねらいや活動を絞ること。主に単元構成に関わる教材研究をすること。
- ② 「視覚化」
視覚的な理解を重視した授業をすること。
- ③ 「共有化」
ポイントを絞った話し合いにし、全員の理解を図る授業をすること。

「論理」を授業の目標にする国語授業

焦点化

「論理的な話し方」
「論理的な書き方」
「論理的な読み方」

視覚化

共有化

『国語授業のユニバーサルデザイン』
筑波大学附属小学校 桂 聖著 より

(2) 実践研究

① 授業実践 I

〔单元名〕書く人のくふうを考えよう
〔教材〕「ほけんだより」を読みくらべよう

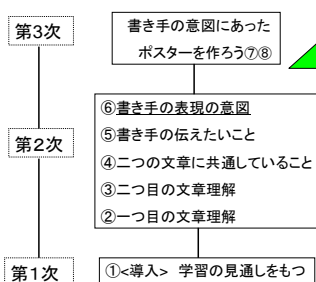
焦点化

ねらいや活動を絞る。教材を教材化する。(段落相互を関連付けた読みにつなげる)

② 授業実践 II

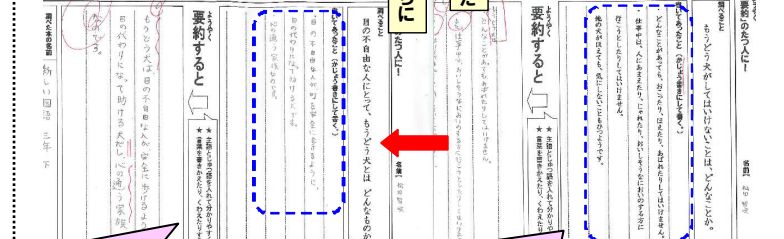
〔单元名〕「はたらく犬の知り事典」を作って紹介しよう
〔教材〕「もうどう犬の訓練」

(資料1)



書き手の表現の意図を読み取ることに絞り、指導計画をたてる。

ステップ2



箇条書きなし。答えは複数の段落。

箇条書きあり。答えは1つの段落。

はたらく犬の知り事典を作るという目的に応じて文章を短くまとめ要約することに絞り、段階的に指導する。

